



2007年2月14日

会社名 第一三共株式会社
代表者 代表取締役社長 庄田 隆
(コード番号 4568 東証・大証・名証各第1部)
問合せ先 執行役員コ-ホ-レ-トコミュニケーション部長 高橋利夫
(TEL: 03-6225-1126)

中期経営計画（2007年度～2009年度）の策定について

第一三共グループは2005年9月28日に第一三共株式会社を設立して以来、2007年4月の完全事業統合に向け順調に準備を進めております。

今般、2015年に向けた長期ビジョンを達成するための第一歩として、2007年度を起点とする3ヵ年の中期経営計画を策定いたしましたので、下記の通り概要をお知らせいたします。

記

1. 中期経営計画（概要）

(1) コアメッセージ

- ①2015年ビジョンに向けた成長基盤の拡充
 - ②経営統合シナジーの最大化
 - ・新薬創出力の強化と研究開発パイプラインの充実
 - ・グループ全体の収益を牽引する国内営業体制の構築
 - ・オルメサルタン、レボフロキサシンなど主力製品の維持・拡大
 - ・要員適正化とグループ内機能子会社設立による業務運営効率向上
 - ③米国における営業力の大幅拡大(MR数2.5倍)
 - ④2009年度目標：営業利益率25% 海外売上比率40%以上
 - ⑤積極的な株主還元
 - ⑥戦略的投資による事業拡大
- (2) 数値目標（医薬品事業のみ）
- 2007年度 売上高8,200億円 営業利益1,570億円（営業利益率19.1%）
2009年度 売上高9,600億円 営業利益2,400億円（営業利益率25.0%）

(3) 積極的な株主還元

①中期方針

- ・「総還元性向」目標 100%

⇒当期フリーキャッシュフローは、株主還元に充当（配当＋自己株式取得）

- ・安定的な増配によるDOE 5%の早期達成

- ・自己株式取得は取締役会決議により機動的に実施

②計数目標

- ・DOE（純資産配当率）5%以上（2006年度見込み 3.5%）

2. 2015年ビジョン（概要）

(1) 基本ビジョン

- ・グローバル創薬型企業（Global Pharma Innovator）の実現

(2) 計数目標

- ・売上高 : 1兆5,000億円
- ・営業利益率 : 25%以上
- ・海外売上比率 : 60%以上

(3) 研究開発における重点疾患

- ・「血栓症」「糖尿病」「癌」「自己免疫疾患/関節リウマチ」各領域でグローバルトップクラスのパイプライン構築

なお、詳細につきましては添付資料をご参照願います。

以上

第1期 中期経営計画

2007年度～2009年度

“日本発のGlobal Pharma Innovator”
の実現に向けた第一步

2007年2月14日

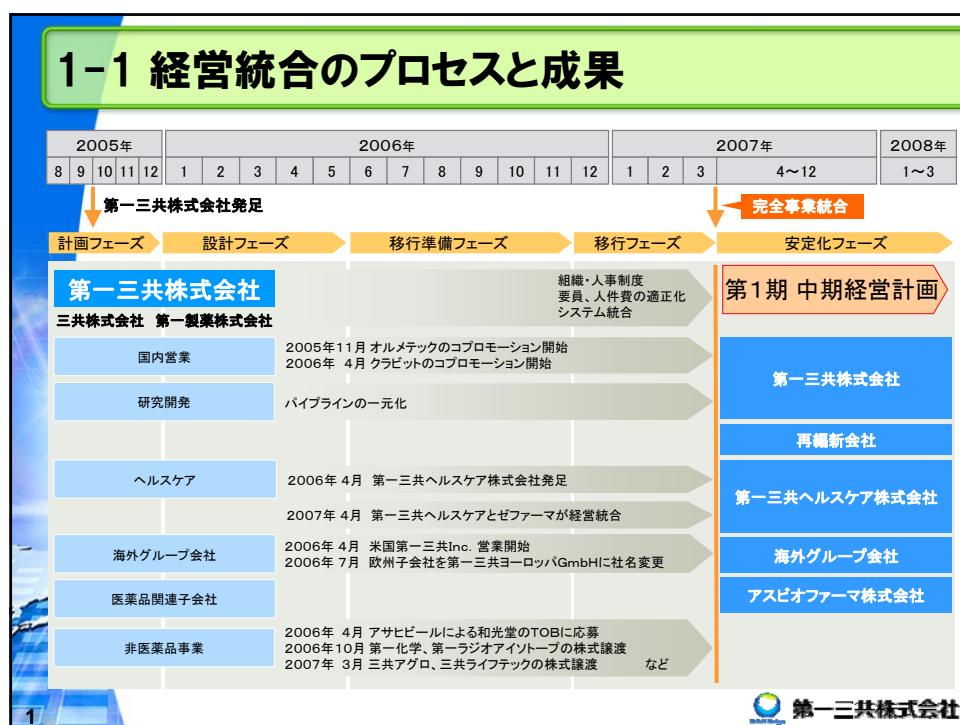
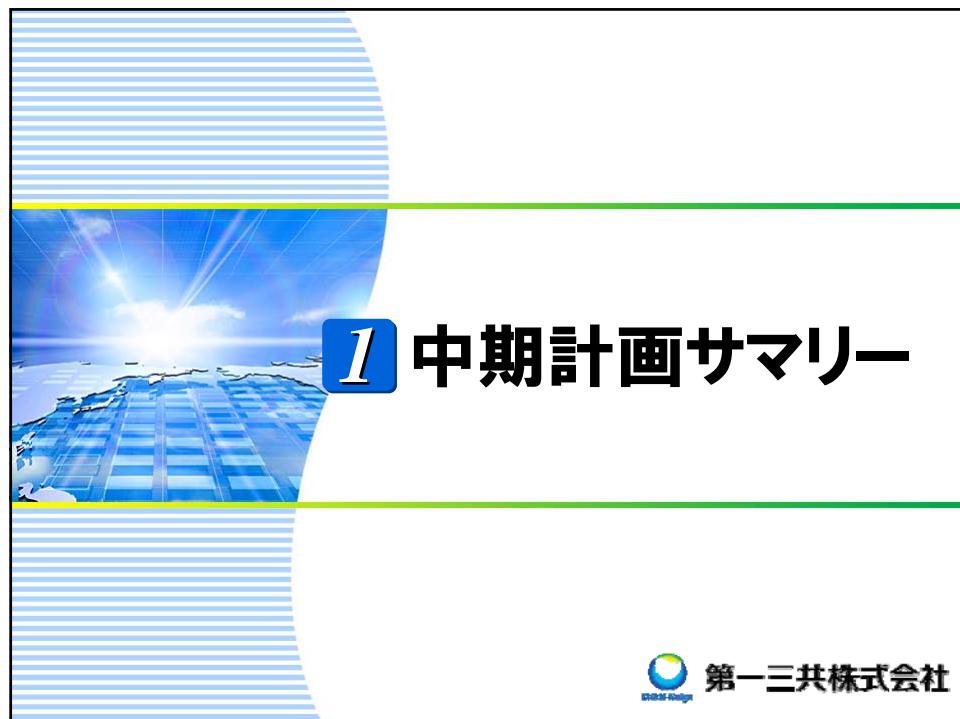
代表取締役社長 庄田 隆

目 次

- 1 中期計画サマリー
- 2 研究開発戦略
- 3 国内事業戦略
- 4 海外事業戦略
- 5 株主還元
- 6 まとめ
- 7 主要開発品目の現況



第一三共株式会社

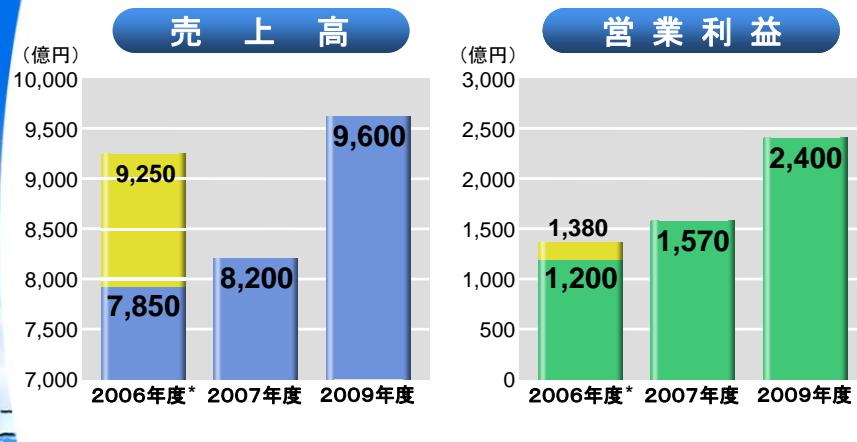


1-2 中期経営計画コアメッセージ

- 2015年ビジョン達成に向けた成長基盤の拡充
- 経営統合によるシナジーの最大化
 - ・新薬創出力の強化と研究開発パイプラインの充実
 - ・グループ全体の収益を牽引する国内営業体制の構築
 - ・オルメサルタン、レボフロキサシンなど主力製品の維持・拡大
 - ・要員適正化とグループ内機能子会社設立による業務効率向上
- 米国における営業力の大幅拡大(2.5倍規模)
- 2009年度目標:
営業利益率25% 海外売上比率40%以上
- 積極的な株主還元
- 戦略的投資による事業拡大

 第一三共株式会社

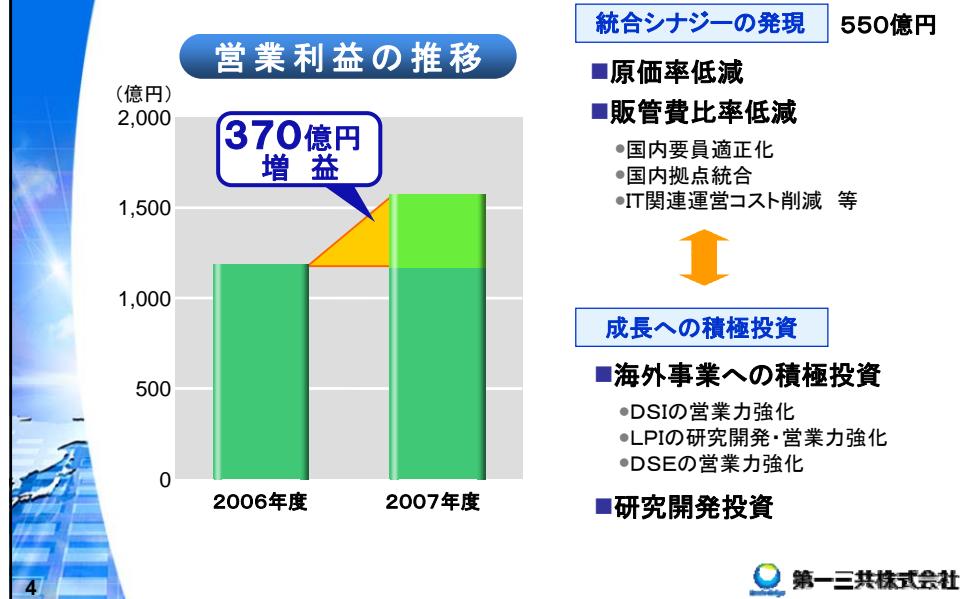
1-3 2007～2009年度の数値目標



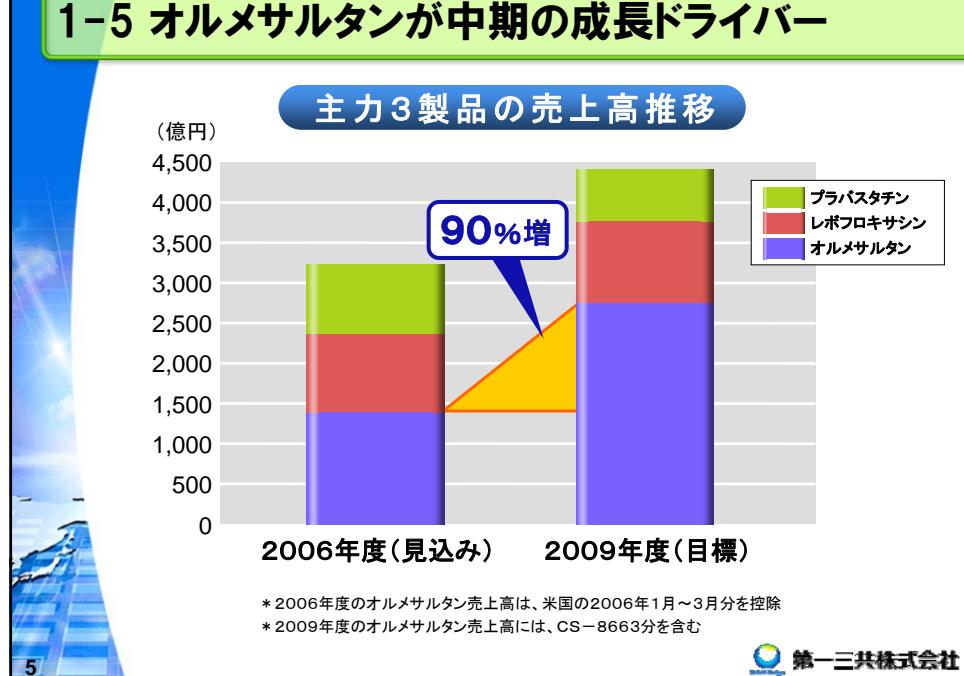
為替レート
1ドル=115円 1ユーロ=140円

 第一三共株式会社

1-4 統合によるコストシナジー創出



1-5 オルメサルタンが中期の成長ドライバー



1-6 損益の目標

■2009年度目標：営業利益率25%

製品名	2006年度(見込み)		2007年度(目標)		2009年度(目標)	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	7,850	100.0	8,200	100.0	9,600	100.0
原価+販管費	6,650	84.7	6,630	80.8	7,200	75.0
うち研究開発費	1,600	20.4	1,550	18.9	1,650	17.2
営業利益	1,200	15.3	1,570	19.1	2,400	25.0

(注)*2006年度については決算発表数字から
・決算期変更により15ヶ月分計上した米国子会社(DSI・LPI)の
数字につき2006年1月～3月分を控除
・非医薬品事業各社などの数字を控除



1-7.1 2015年ビジョン

“グローバル創薬型企業” Global Pharma Innovator の実現

■グローバル

- “世界の主要地域に拠点を構えて事業を展開する企業”

■創薬型企業

- 医薬品事業に集中し、
“革新的医薬品を継続して創出する企業”



1-7.2 2015年ビジョン

■グローバル企業に足る業績の追求

2015年の計数目標

- ・売上高 1兆5,000億円
- ・営業利益率 25%以上
- ・海外売上比率 60%以上

■研究開発における重点疾患

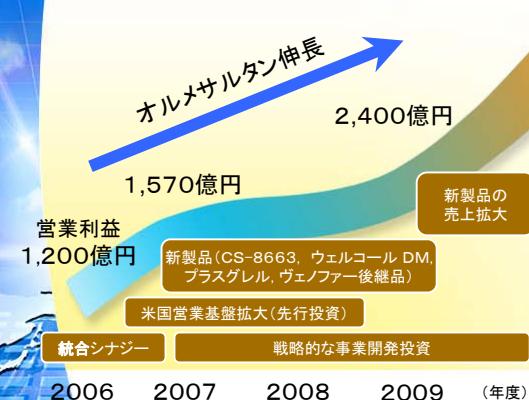
- ・血栓症・糖尿病・癌・自己免疫疾患/関節リウマチ

グローバルトップクラスのパイプライン構築

 第一三共株式会社

1-7.3 2015年ビジョン達成までのプロセス

第1期 中期経営計画 2015年ビジョン達成に向けた成長基盤の拡充



2015年
売上高
1兆5,000億円
営業利益率
25%以上
海外売上比率
60%以上

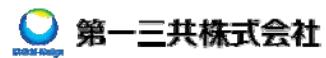
2010年度以降の長期成長に向けて

- DU-176b, DZ-697bなど大型候補品の開発推進
- グローバル4極体制の拡充
- サプライチェーン再編

 第一三共株式会社



2 研究開発戦略



2-1 研究開発 中期目標

- グローバル研究開発体制の確立
- 研究開発パイプラインの充実
- 戦略的投資による研究開発基盤づくり

2-2 本期間中の申請予定品目

地 域	申 請 中	申 請 予 定 品 目
日本 アジア	DU-6859a(グレースピット) CS-1401E(エンタネット 小児) LX-P(ロキソニンテープ)	CS-866AZ SUN Y7017(メンチン) クラビット高用量 KMD-3213(ユリーフ 中国) CS-8958 DS-992(HGF) クレメジン(中国) CS-866HCTZ(中国) など
米 国	CS-8663 ウェルコールDM(糖尿病)	CS-747(プラスグレル) など
欧 州		CS-8663 CS-747(プラスグレル) など

新規成分 剤形追加・適応追加 など



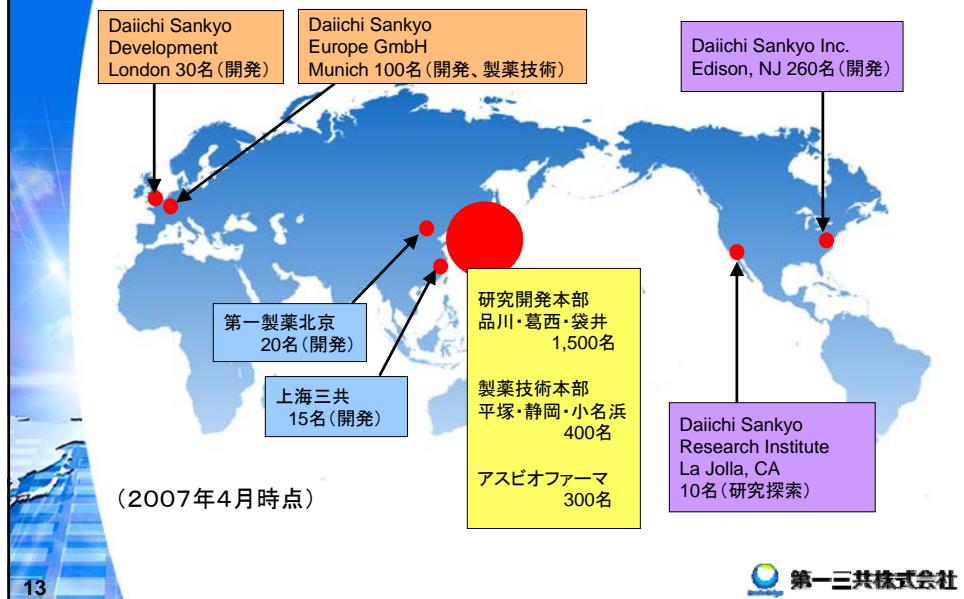
2-3 本期間に発売予定の主な新製品

地 域	品 目	
日本 アジア	DU-6859a (グレースピット) クラビット高用量 KMD-3213 (ユリーフ 中国) CS-866HCTZ(中国)	HIBワクチン LX-P (ロキソニンテープ) クレメジン(中国) サンリズム(韓国)
米 国	CS-8663 CS-747 (プラスグレル)	ウェルコールDM(糖尿病)
欧 州	CS-8663	CS-747 (プラスグレル)

新規成分 剤形追加・適応追加 など



2-4 グローバル研究開発拠点



3 国内事業戦略

第一三共株式会社

3-1 医療用医薬品事業 中期戦略の骨子

- 新しい国内営業体制による売上シナジー
- 重点製品群(オルメテック、クラビット、メバロチン等)に営業・マーケティング資源を優先的に投入
- オルメテック・クラビットを成長ドライバーと位置づけ
- ライフサイクルマネジメントの強化による製品価値向上



2009年度目標 売上高 4,700億円

 第一三共株式会社

3-2 統合シナジーの具現化と生産性の向上

■新しい国内営業体制によるトップスピードでの発進

- 統合初年度から最大の売上シナジーを発揮させるための営業組織の一元化・マーケティング戦略・卸戦略
- MR2,300名体制 質量ともに国内最高レベルの学術情報提供活動を展開
- 「施設担当MR」ラインと「領域担当MR」ラインによる協業

■MR生産性の向上(現行薬価ベース)

- 2007年度目標:1人当たり売上生産性25%アップ(2006年度比)
- 2009年度目標:1人当たり売上高2.5億円超

 第一三共株式会社

3-3 重点製品領域の売上高目標

領 域	製 品	2006年度見込み	2009年度目標
循環器関連 疾患領域	オルメテック アーチスト カルブロック メバロチン リバロ クレメジン ファスティック など10品目	1,850億円	2,300億円
感染症/骨・関節/ 免疫・アレルギー/ 泌尿器	クラビット ロキソニンブランド モービック ジルテック ユリーフ	1,050億円	1,200億円
造影剤/癌/消化器	オムニパーク オムニスキヤン トポテシン クレスチン フェロン	500億円	500億円

16



3-4 第一三共ヘルスケア(DSHC)の中期計画

■戦略

- 複数ブランドを保有する「総合感冒薬」「胃腸薬」などの医薬品領域で
フランチャイズを構築
- 新規事業開発、提携及び新分野(機能性スキンケア・機能性食品)への
積極展開による成長基盤の確立
- ローコストオペレーションによる事業運営効率の向上

■新製品発売予定

- ウインダム(水虫治療薬)、スキンケア関連製品など

■要員数

- 390名体制(前年度*比 約25%要員減) MR150名体制

■2009年度目標:売上高580億円 営業利益率10%以上

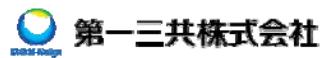
*第一三共ヘルスケア+ゼファーマ

17





4 海外事業戦略



4-1 海外事業戦略の骨子

- オルメサルタン拡大・新製品上市に向けた、
欧米を中心とする営業基盤の増強
- レボフロキサシンをはじめとする原薬輸出による
収益基盤の確保
- アジア・中南米地域における事業基盤の拡大

4-2.1 第一三共Inc.(DSI)の中期計画

■戦略

- 既存品の強い成長の継続
- 効果的な販売力拡大の達成
- 新製品上市のための組織の準備

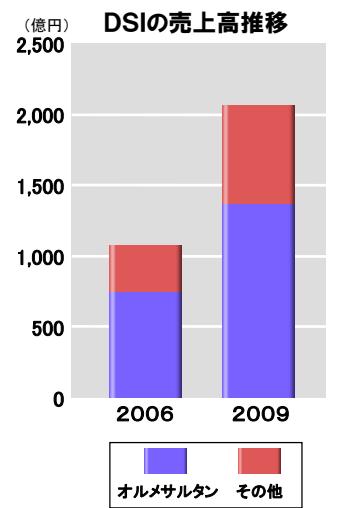
■新製品発売計画

- CS-8663 (オルメサルタンとアムロジピン配合剤)
- ウェルコールDM (2型糖尿病治療の適応追加)
- プラスグレル (抗血小板剤)

■営業担当者を順次増強

900名体制⇒2,300名体制(2009年)

■2009年度目標: 売上高2,000億円以上



第一三共株式会社

19

4-2.2 米国における急成長に向けた営業力拡大

トピックス

営業担当者
増強計画

★CS-8663発売
(オルメサルタン+アムロジピン)

★プラスグレル申請

★ウェルコール(糖尿病)発売

※「2007年度1Q」は2007年4~6月を示し、以下同様

20

第一三共株式会社

4-2.3 ルイトポルド社(LPI)の中期計画

■戦略

- ヴェノファー(貧血治療剤)の売上維持
- VIT-45(ヴェノファー後継品)などの発売に向けた営業力増強(2007年~2008年の先行投資)
- Osteohealth部門(歯科用材などの事業部門)の強化

■営業担当者の増強

- 50名体制⇒350名体制(2009年)

■2009年度目標: 売上高600億円以上

 第一三共株式会社

4-3 第一三共ヨーロッパ(DSE)の中期計画

■戦略

- 新製品上市のための営業力強化
- プラスグレル発売に向けた心血管領域におけるスペシャリストチームの構築

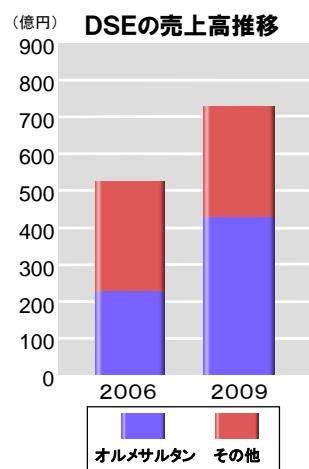
■新製品発売計画

- CS-8663(オルメサルタンとアムロジピン配合剤)
- オルメテック プラス(オルメサルタンと利尿剤の配合剤の高用量製剤)
- プラスグレル(抗血小板剤)

■営業担当者を順次増強

800名⇒1,000名体制(2009年)

■2009年度目標: 売上高700億円以上



 第一三共株式会社

4-4 アジア・中南米事業 中期計画の骨子

■オルメサルタンを軸とした拡大策を各国で展開

- 中国 2社(第一製薬北京・上海三共)の連携によるシナジー
- 台湾 統合新社による既存品拡大 CS-8663など新製品上市
- 韓国 100%現地法人(2006年10月より)の循環器領域での基盤構築
- ブラジル・ペネズエラ オルメサルタン(単剤・利尿剤との配合剤)・CS-8663の売上拡大

■アジアにおけるレボフロキサシンの維持・拡大

■インドでの新社設立(2007年中予定)

- ユニ三共(現地合弁会社 39.99%出資)との連携強化

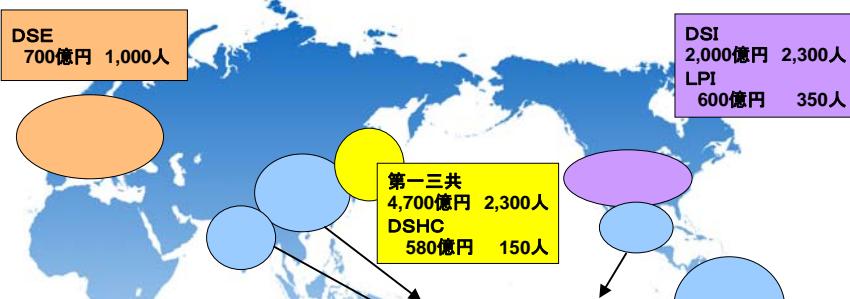
■2009年度目標:売上高250億円

23

 第一三共株式会社

4-5 グローバル4極体制による営業基盤確立

■2009年度 売上高・MR(営業担当者)要員計画



24

 第一三共株式会社

5 株主還元

 第一三共株式会社

5-1 株主還元について

■中期方針

- 当期フリー・キャッシュフローは、
株主還元に充当(配当+自己株式取得)
⇒「総還元性向」目標: 100%
- DOE5%の早期達成を目指し、安定的な増配を実施
- 自己株式取得は取締役会決議により機動的に実施

2009年度目標

DOE
5%以上

2006年度
年間配当金60円
DOE
3.5%

ROE10%以上、配当性向50%程度
DOE(純資産配当率)=配当性向×ROE

	2006年度 (見込み)	2009年度 (目標)
EPS	97円	2倍以上
ROE	5.7%	10%以上

 第一三共株式会社



6まとめ

 第一三共株式会社

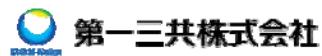
6-1まとめ

- 経営統合によるシナジー(売上・コスト)の最大化
- 2015年ビジョン達成に向けた、研究開発力強化
および米国を中心とする先行投資
- パイプラインの充実
- 営業利益率25% 海外売上比率40%以上の達成
- 積極的な株主還元



7 主要開発品目の現況

GEMRAD議長
John C. Alexander



7-1 研究開発の統合

- GEMRAD（研究開発意思決定会議）は
2005年10月よりスタート
- 2006年4月、米国および欧州の統合完了
- 2007年1月、グローバル研究開発戦略会議開催
- 2007年4月、研究開発の完全統合

7-2 主要開発品目一覧表

	開発候補品	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3	申請中
循環器		DZ-697b	DU-176b CS-866RN (#) CS-866CMB (#) SUN 4936h	CS-747 HGF CS-866DM (#) CS-866AZ (#)	CS-8663
糖代謝		SUN E7001 (#) AJD101	CS-011 CS-917		ウェルコールDM
感染症		DX-619 CS-758 CS-8958 DC-159a	[CS-023]		DU-6859a DF-098 (#) → [SUN A0026]
がん	DE-766 (#)	CS-7017 CS-1008			
免疫・アレルギー		CS-0777	CS-712 (#)		
骨・関節	OCIF		CS-706 SUN E3001 (#)	CS-600G (#)	LX-P (#)
その他	CS-011 (#) (dry eyes)	SUN N8075	SUN N4057 CS-088 KMD-3213 SUN11031	SUN Y7017 (#) DL-8234 (#) [SUN0588r]	CS-1401E (#) DL-404 (#) →

• #: 日本のみの開発

• []: 導出

• ケローバル(日本以外)で開発している課題に関しては、最も進んだステージのみ記載

• アンダーライン(青字)は現在の最優先プロジェクト



28

7-3.1 プラスグレル (CS-747)

■イーライリリー社と共同開発、共同販売活動

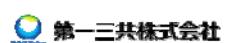
■血小板凝集阻害薬

- 急性冠症候群 (ACS) の適応症にて申請予定

■フェーズ1試験では優れたプロファイルを示唆

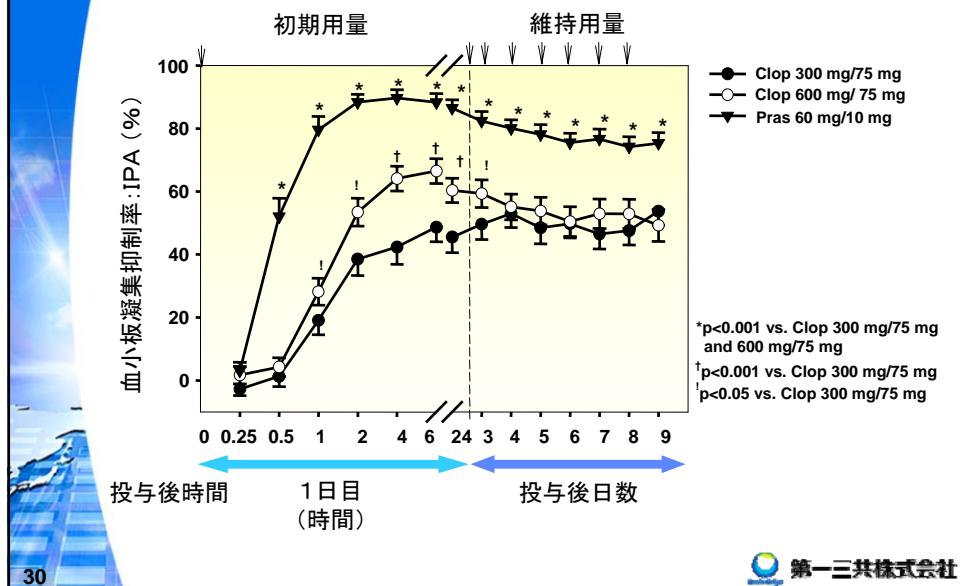
- 強力な血小板凝集抑制作用
- 早い薬効発現
- 安定した薬効

■フェーズ2試験では、出血プロファイル(出血事象・頻度)が安全性許容範囲内であることを確認



29

7-3.2 プラスグレル —プラビックスの高用量投与より強力な血小板凝集抑制作用—



第一三共株式会社

7-3.3 プラスグレル —フェーズ3試験(TRITON)結果の概要—

■背景

- プラビックスとの直接比較試験による優越性の検証
- イベント発症に基づく有効性確認の試験
- 早い薬効発現、強力な血小板凝集抑制作用、安定した薬効が臨床試験で確認されることを期待

■進捗状況

- 13,600症例の登録完了

■2007年夏に試験終了

■2007年末までに承認申請予定

第一三共株式会社

7-4 CS-8663

■カルシウム拮抗剤(CCB)の中で最も服薬されているアムロジピンと、ARBの中で最速の成長を続けているオルメサルタンとの配合剤

- ・アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬ARBは降圧剤市場での急成長を持続。
- ・ベニカー(米)／オルメテック(欧)の拡大に向けたライフサイクルマネジメント戦略の一環

■目標効能:各単剤で効果不十分な高血圧症患者の二次治療

- ・欧米での高血圧症患者数は1.2億人とされ、現在も増加中。
- ・薬物治療を受けている、高血圧症患者は全体の40-50%のみ。目標血圧値に達しているのはそのうち約半分にすぎない。
- ・より多くの患者でガイドライン規定の治療目標値を達成させ、未充足の医療ニーズを満たす。

■2006年11月承認申請(米国)

■2007年秋承認申請予定(欧州)



32

7-5.1 DU-176b -経口抗凝固薬の医療ニーズ-

■確実な薬剤の効果発現(モニタリング不要)

■DVT患者・NVAF患者におけるリスク／ベネフィットの改善

(DVT:深部静脈血栓症、NVAF:非弁膜性心房細動)

■速やかな薬効発現

■薬物相互作用が無い

■食事の影響を受け難い



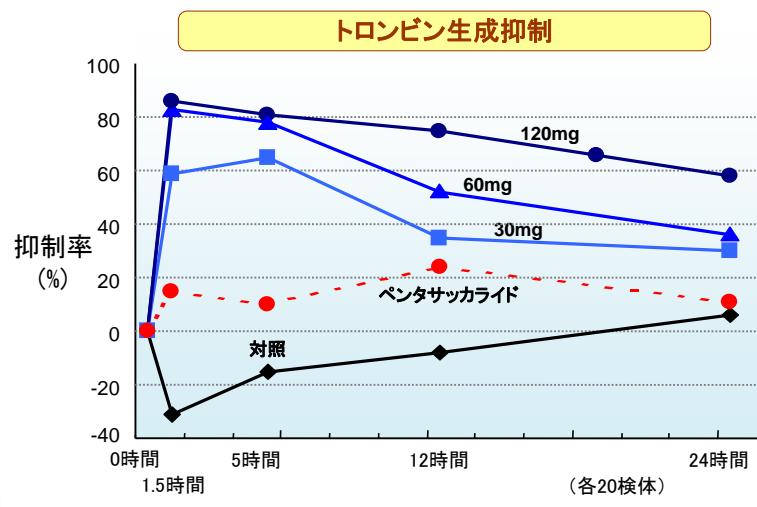
33

7-5.2 DU-176b

- ベスト イン クラスの 血液凝固 第Xa因子阻害剤を目標
- 前臨床試験(トキシコゲノミクス含む)や臨床試験で、肝毒性無し
- フェーズ2b試験 実施中
 - 対象: THR(人工股関節全置換術患者)
TKR(人工膝関節全置換術患者)
- フェーズ2b試験 準備中
 - 対象: NVAF(非弁膜性心房細動患者)
- 巨大市場だが競合も多い

第一三共株式会社

7-5.3 DU-176b *Ex vivo* 試験(ヒト)



ヒトでの試験で、1日1回用法の可能性が示唆された

第一三共株式会社

35

7-5.4 DU-176b 製品プロファイル・ポジショニング

特徴	DU-176b
用法	1日1回 経口
効果	ワルファリンに劣らない (DVT・NVAF)
安全性・容忍性	
- 出血	ワルファリンより少ない
- 肝機能異常	肝毒性無し (競合品より優れる)
適応疾患	DVT(深部静脈血栓症) NVAF(非弁膜性心房細動)
食事の影響	無し
モニタリング	無し



7-6 DZ-697b

■新規メカニズムにより血小板の凝集を抑制

- 高ずり応力による血小板の凝集を抑制
- 可逆的な抑制
- 低ずり応力の状態では、血小板の凝集抑制が弱いので出血リスクが少ない

■フェーズ1試験

- 早いオンセット、長い抑制効果を確認
- ずり応力による血小板凝集の抑制を確認
- 経口吸収性とAUC(薬物血中濃度時間曲線下面積)は、投与量と良好な相関性を示し、食事や人種による影響も無い
- アスピリンとの併用でも、安全性の懸念が少ない
- ヒトでのバディモンチャンバー血栓モデルにおいて抑制効果確認

■フェーズ2a試験 準備中

- フェーズ2a試験: 2007年開始予定
- 標的疾患 脳梗塞／一過性脳虚血発作、急性冠症候群

■主要な適応疾患

- 脳梗塞、急性冠症候群、微小循環障害



7-7.1 糖尿病フランチャイズ

ウェルコール DM - 糖尿病への適応拡大(米国) -

- ウェルコール(一般名: 塩酸コレセベラム)は、経口の高コレステロール血症治療剤(非吸収型胆汁酸吸着剤)
- 他の低血糖薬との併用による3本のフェーズ3試験の結果は、ウェルコールが既存の治療法で十分コントロールできない2型糖尿病患者に対して有効であるということを示す
- 2006年12月承認申請(sNDA)

CS-011 リボグリタゾン

- 活性の強い選択的PPAR γ アゴニスト糖尿病治療薬
- ピオグリタゾンよりも優れた血糖コントロールと安全性の確認が目標(ベスト イン クラス)
- フェーズ2b試験が終了し、ピオグリタゾンを上回る用量依存的な糖・脂質代謝改善が確認された。
- がん原性試験進行中
- フェーズ3試験に向け、FDAと協議中



38

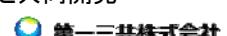
7-7.2 糖尿病フランチャイズ

CS-917

- フルクトース1-6-ビスホスファターゼ(FBPase) 阻害薬(ファースト イン クラス)
- FBPaseは肝臓での糖新生をつかさどる酵素
- 2型糖尿病の大部分の患者に対する治療薬になる可能性(単独投与または他剤との併用)
- 空腹時血糖値を低下(PoC確認)
- 安全性確認のための低用量のフェーズ2b試験は、乳酸アシドーシスの上昇なく登録を完了

AJD101

- 2006年8月、味の素株より導入
- 新規メカニズムの糖尿病治療薬
- 欧州において、4つのフェーズ1試験終了。健常人と患者で忍容性、安全性を確認
- 日本においてフェーズ2a試験、欧州において機序解明の試験を計画中
- 海外においては独占的な開発、日本においては味の素株と共同開発



39

本資料に関するお問い合わせ先

**第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部**

TEL : 03-6225-1126

FAX : 03-6225-1132

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点での入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。